

宮古市等（岩手県）科研費・基盤研究A「天文学との連携にもとづく考古学・考古史学研究法の構築」（19H00544）「日本固有の星名に関するフィールド調査」研究成果報告書

北尾浩一

（1） 岩手県宮古市及び周辺部で確認された「日本固有の星名」に関する天文民俗学的データ

①岩手県宮古市鯨ヶ崎

宮古市鯨ヶ崎（写真下）の昭和16年生まれの漁師（宮古市鯨ヶ崎出身）より、「ミツボシ、3つ横に」「ナナツボシ、おおぐまを年寄りにはナナツボシと言っていた」と記録。星の出をイカ釣りの目標にした経験はなかった。

（ミツボシは、オリオン座三つ星。ナナツボシはおおぐま座 α β γ δ ϵ ζ η （北斗七星）を意味する）



②宮古市田老

宮古市田老（写真右）のA1さん（昭和13年生まれ。田老出身）より、ヒグレノホシ、ユウグレノホシ。ヨアケノホシという星名を記録した。星をイカ釣りの目標とした経験はなかった。

（東日本大震災で甚大なる被害を受けており、話者を訪ねるのは極めて困難であった。復興住宅に、A2さん（大正6年生まれ。田老出身）を訪ねるが、ヨアケボシの記憶をたどろうとするものの高齢で難しかった）



③岩手県下閉伊郡普代村

普代村堀内 (写真下) のB 1 さん (昭和13年生まれ。普代村出身。漁師) は、「朝、夜明けイカつく。ナドキイカ。イカは満月わるい。闇夜よい」と伝えていたものの、星の出にイカが釣れるとは伝承していなかった。

「ヨアケボシ、見てもう少しがんばるべ」と言った。一晩中仕事して、あと少しがんばれば仕事が終わった。「星がきらきらするとあした天気よい」と言った。



④岩手県下閉伊郡田野畑村

田野畑村 (写真右) のB 2 さん (昭和2年生まれ。田野畑出身。漁師) は、次のようにイカ釣りの目標にする役星を伝えていた。

「ムヅラ、3つ並んでムヅラボシ。ムヅラ、3つ並んで3つますすぐ」

「イカ釣り行って、ムヅラの出ると、遅いな。その前、ムヅラの出る前にイカつく」

「ムヅラの出る前に釣れる。おそくなるとイカつかない。帰る」

ムヅラは、オリオン座三つ星のこと。この場合は、小三つ星を含まなかった。



⑤岩手県上閉伊郡大槌町赤浜

大槌町赤浜のC 1 さん (昭和9年生まれ。船越出身。漁師) は、次のようにイカ釣りの役星を伝えていた。

「ヨアケボシって、それあがると1時間くらいで夜明ける。それまで少しやって、と言った。アカッポシともいう」

「オクサ。ごじゃごじゃと星がかたまったのがあがってくる」「オクサ、サンカクあがる。必ず星の出、イカつく」

アカッポシは赤星のことで、アルデバランを意味するケースが多いが、この場合はヨアケボシと同じで明けの明星を意味した。

オリオン座三つ星と小三つ星については、ムジラと伝えていた。

オクサについては、「オクサ、ぐざぐざとなっているからオクサ。かたまっていることをぐざぐざ」と伝えていた。プレアデス星団を意味する。

サンカクは、アルデバランとヒアデス星団でつくるV字形を意味した。(写真下)



⑥山田町船越田の浜

山田町船越 (写真下) のD1さん (田の浜出身、昭和15年生まれ。漁師) は、イカ釣りの役星について伝えていた。

「ムヅラと言っていた。イカとれた。星がこう3つ並んで」「ムヅラあがったイカとれた」

「ムヅラボシのあとにオオッポシって大きな星があがる。オオッポシ、そのあと、夜明けスルメ」

「星の勘定で、いま何時。ムヅラの出、星の勘定で」というようにイカ釣りの目標にする役星を伝えていた。

ムヅラは、オリオン座三つ星のこと。この場合は、小三つ星を含まない。

ムヅラのあとに続いて上るオオッポシー大星は、シリウスを意味する。



(2) 調査データから、今回の科研の目的に沿った天文民俗・天文考古および認知天文学的な分析・考察

①オリオン座三つ星（小三つ星を含むケースもある）を六連星と呼ぶことについての分析・考察

江戸時代の方言辞書『物類称呼』（越谷吾山著、1775年）には、「江戸にては○むつら星といふ」とある。（右図） プレアデス星団を、六つの星が連なっている様子と認知して六連星（ムツラボシ、ムヅラボシ）という星名が形成されたのである。

プレアデス星団を六連星（ムヅラ、ムジ、ムジナ等に変化）と呼ぶケースは次のように広く分布する。

●ムヅラ、ムツラ

- ・青森県上北郡六ヶ所村泊……ムヅラ
- ・岩手県久慈市……ムツラ、ムヅラ
- ・秋田県男鹿市戸賀……ムツラ
- ・秋田県男鹿市塩崎……ムヅラ
- ・秋田県男鹿市加茂……ムヅラボシ
- ・茨城県北茨城市大津町……ムヅラ
- ・群馬県利根郡みなかみ町藤原……ムツラ

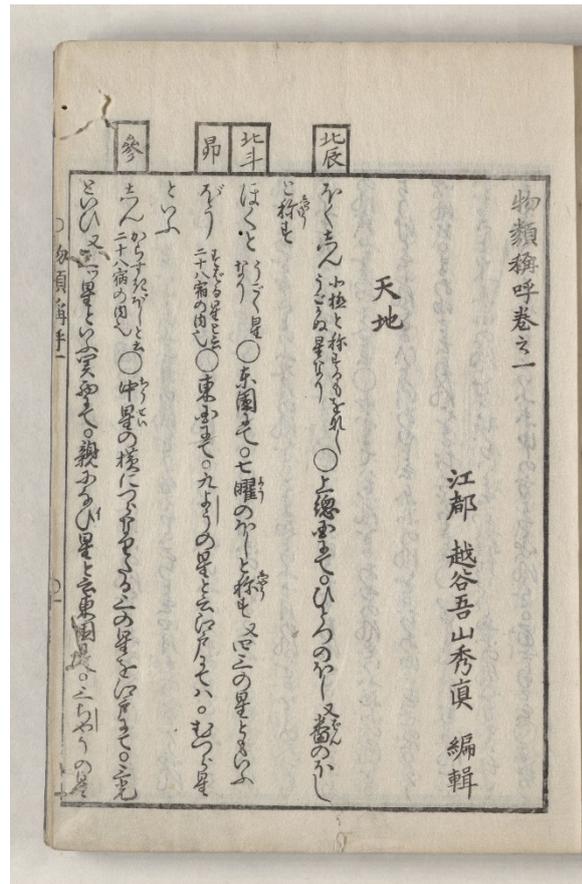
●ムジラ

- ・青森県下北郡大間町大間……ムジラ
- ・青森県下北郡風間浦村蛇浦……ムジラ
- ・青森県下北郡風間浦村易国間……ムジラ

●ムジナ

- ・青森県下北郡風間浦村蛇浦……ムジナ
- ・青森県下北郡風間浦村易国間……ムジナ
- ・秋田県男鹿市塩崎……ムジナ
- ・秋田県男鹿市門前……ムジナボシ

ところが、宮城県気仙沼市、岩手県大船渡市において、オリオン座三つ星（あるいは小三つ星を含む）を意味していた。青森県八戸市においては、オリオン三つ星はサンコウとなる。



気仙沼よりさらに北の地域においても、オリオン座三つ星（小三つ星を含むケースもある）のムヅラ系の星名が伝えられているかどうか、調査の空白地域になっていた。

本調査によって、その空白地域においても、次のように六連星（ムジラ等に変化）がオリオン三つ星を意味していたことが明らかになった。

- ・岩手県下閉伊郡田野畑村…ムヅラ
- ・岩手県上閉伊郡大槌町赤浜…ムジラ

②星をボシと呼ぶことについての分析・考察

星をホシと呼ぶとは限らない。南西諸島においてはプス、プシ、プシが分布する。そもそも星名として、「ホシ」をつけないケースも広く分布する。たとえば、スバルボシと言わずにスバルと呼ぶ。

仕事をしているときの目標として、星の名前を呼ぶとき、できるだけ短いことが好都合である。魚の名前がアジ、サバ、ブリ、タイ、サケ等のように2文字が多く、長くてもマグロ、カレイ、サワラ、スズキ等のように3文字であり、速やかにコミュニケーションできるようになっているのと同様、星の場合も、「スバルボシが出た」と5文字で表現するより、「スバルが出た」と3文字で表現するほうが速やかで確実なコミュニケーションが可能である。

そもそも、人が言葉を生活に必要としたとき、それはできるだけ短いものであったのではないだろうか。星を認知し、それを言葉で表現したとき、短いほうが好都合であり、ホシをつけないのが本来であったという仮説を立ててみた。

しかし、後の時代になって、ホシをつけるようになった。最初につけたのは、ホシであろうかフシであろうか、プシであろうか。

東北地方においては、ホシあるいはボシであり、ボシの事例ははじめてである。一方、南西諸島においては、プシ、プスというように、半濁音が記録ができる。本調査の成果を東北地方における半濁音の記録例として、今後の分析の課題としたい。

（3）今後の研究への発展と課題

星を人間が認知する。名前がなくても目標にする。やがて、名前をつける。その各プロセス、構造を解明していくにあたって、下記の各地域の調査研究で得ることができた伝承資料をもとに進め発展させていきたい。

・東北地方

東北地方には、ムヅラ、サンコウ、マス、モッコ等、生活のなかでホシをつけずに使用する星名が広く使われている。そして、厳しい寒さ、荒れた海にかかわらず、星を目当てにしている。とくに、イカ釣りの役星伝承を通して、広く伝播している。その意味で、東北地方の調査研究にひとつのポイントを置きたい。

・瀬戸内海地方

日本の星名伝承形成にあたって、瀬戸内海という夜間でも比較的安全に漁ができる環境

に恵まれた地域があったことを忘れてはならない。瀬戸内海の星名伝承については、先行研究が唯一豊富な地域であり、さらには今日においても多様で豊かな星名伝承の記録が可能な地域である。それだけに、瀬戸内海は、星を認知し文化を形成していく構造解明に必要な幅広いフィールド記録が存在するという意味で調査研究のポイントとなる。

・南西諸島

日本の星の基層文化の研究にあたって、奄美大島、喜界島より南、即ち南西諸島の星名伝承は、吐噶喇列島以北と大きく異なっている。それらの相違点から、日本の星の認知構造について発展させていくポイントとなる。

.....
.....

(話者名一覧表・・・個人情報につき取り扱い注意)

A 1 : 下西文二さん、昭和13年生まれ。田老出身。遠洋漁業も経験した漁師。

A 2 : 松本永次郎さん、大正6年生まれ。田老出身。

B 1 : 坂上よしひでさん、昭和13年生まれ。普代村出身。漁師。

B 2 : 畠山重雄さん、昭和2年生まれ。田野畑出身。漁師。

C 1 : 岡屋堅吉さん、昭和9年生まれ。船越出身。10歳のとき父親と大槌町赤浜へ。漁師。

D 1 : 矢口聖さん、昭和15年生まれ。田の浜出身。漁師。